

第2回 あま市小中学校あり方検討委員会 会議録（大要）

開催日時	令和4年3月22日（火）午前9時30分～午前11時10分
開催場所	美和公民館 3階 研修室
出席委員	<p>1 委員長 山田 貞二（岐阜聖徳学園大学准教授）</p> <p>2 副委員長 小林 優太（愛知教育大学非常勤講師）</p> <p>3 委員 溝口 紘（有識者）</p> <p>4 委員 加藤 万佐子（あま市立宝小学校校長）</p> <p>5 委員 安江 利成（あま市立甚目寺南中学校校長）</p> <p>6 委員 岩井 小百合（あま市保育園保育士長）</p> <p>7 委員 林 弘樹（宝学園（中川幼稚園）理事長）</p> <p>8 委員 古川 式規（財政課長）</p> <p>9 委員 早川 敬成（企画政策課長）</p> <p>10 委員 恒川 和宏（子育て支援課長）</p>
欠席委員	欠席委員 佐藤 明美（保護者）
事務局	<p>1 松永教育長</p> <p>2 吉川教育部長</p> <p>3 日比野教育次長</p> <p>4 内山学校教育課長</p> <p>5 鎌倉生涯学習課長</p> <p>6 神戸スポーツ課長</p> <p>7 平野学校給食センター課長</p> <p>8 水野指導主事主幹</p> <p>9 書記野々目課長補佐</p>
傍聴人	0人
議事日程	<p>(1) 前回までのご意見まとめについて</p> <p>(2) アンケート集計結果について</p> <p>(3) 検討する課題の統合について</p> <p>(4) 検討する順番について</p> <p>(5) 質問・ご意見聴取</p> <p>その他</p>

発言者	議事の概要															
山田委員長	<p style="text-align: right;">【開会時刻 午前9時30分】</p> <p>定刻となりました。 本日はお忙しいところ、ご出席いただきありがとうございます。それでは、ただいまより第2回あま市小中学校あり方検討委員会を始めさせていただきます。</p>															
山田委員長	(挨拶)															
山田委員長	最初に、本日の資料の確認を事務局にお願いします。															
学校教育課長	<p>本日の資料の確認をお願いします。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 60%;">1 次第</td> <td style="width: 20%; text-align: center;">A4</td> <td style="width: 20%; text-align: center;">1枚</td> </tr> <tr> <td>2 あり方に関するご意見</td> <td style="text-align: center;">A4</td> <td style="text-align: center;">1部</td> </tr> <tr> <td>3 第1回後アンケート集計結果</td> <td style="text-align: center;">A4</td> <td style="text-align: center;">1枚</td> </tr> <tr> <td>4 検討する課題の統合について</td> <td style="text-align: center;">A4</td> <td style="text-align: center;">1枚</td> </tr> <tr> <td>5 資料一覧</td> <td style="text-align: center;">A4</td> <td style="text-align: center;">1部</td> </tr> </table> <p>①近隣市児童生徒数暦年推移 ②あま市小学校別新入学児童数推移 ③小中学校あり方に関するご意見③施設の共有化・複合化について 資料あま市近隣の民間プール施設 ④名古屋市教委照会「学校外プールの活用について」 ⑤学校施設の標準的使用状況調査結果一覧 ⑥あま市小学校の通学距離 ⑦令和3年度宝小学校通学路 ⑧令和3年度秋竹小学校通学路 ⑨あま市学校教育関係予算暦年比較</p> <p>6 あま市教育立市プラン A4 1部 以上です。</p>	1 次第	A4	1枚	2 あり方に関するご意見	A4	1部	3 第1回後アンケート集計結果	A4	1枚	4 検討する課題の統合について	A4	1枚	5 資料一覧	A4	1部
1 次第	A4	1枚														
2 あり方に関するご意見	A4	1部														
3 第1回後アンケート集計結果	A4	1枚														
4 検討する課題の統合について	A4	1枚														
5 資料一覧	A4	1部														
山田委員長	それでは、市教育委員会を代表しまして、教育長よりご挨拶をお願いします。															
教育長	(挨拶)															
山田委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>本委員会の議事録の概要を市ホームページで公開するため、事務局が委員会の内容を録音させていただきますので、ご承知おきください。</p>															
山田委員長	それでは、「議題（1）前回までのご意見まとめについて」に入ります。事務局をお願いします。															
学校教育課長	<p>前回までのご意見まとめについてご説明します。</p> <p>資料、小中学校のあり方に関するご意見 をご覧ください。</p> <p>まとめにありますように、第1回会議及びアンケートにおいて5件のご意見を頂きました。なお、ご意見のタイトルは内容から事務局がつけさせていただいたものです。</p> <p>詳細については、担当からご説明いたします。</p>															

<p>書記</p>	<p>ご説明します。</p> <p>小中学校のあり方に関するご意見 全般 1ページをご覧ください。</p> <p>皆様からいただいたご意見のうち、全体にかかるものや個別の分類によらないものをこちらに記載してあります。</p> <p>会議のなかで</p> <p>山田委員長から 学校のあり方の検討は、子供たち主体であるというご意見</p> <p>小林副委員長から 議論の順番により前提が変わってしまうので注意するというご意見</p> <p>早川委員から テーマによっては複数のテーマで検討をしていただければと思うというご意見</p> <p>アンケートのなかで</p> <p>小林副委員長から あま市の教育ビジョンと現状への認識の共有というご意見</p> <p>早川委員から 現在の市の財政状況や施策状況等を認識していただけるような資料の提供をしますというご意見</p> <p>以上を頂いています。</p> <p>なお、小林副委員長からいただいたご意見に対応するため、現在策定中の「あま市教育立市プラン」をお手元にお渡ししています。</p> <p>詳細については、後ほどご説明します。</p>
<p>書記</p>	<p>3ページの小中学校のあり方に関するご意見①小規模校と大規模校についてをご覧ください。</p> <p>会議のなかで、</p> <p>山田委員長から 小規模校がどんな状況からその様な状況に至ったのか</p> <p>加藤委員から あま市役所新庁舎が建てられることによる展望と小中一貫校となったときの通学距離は</p> <p>佐藤委員から 近隣市町の人口減少の動向は</p> <p>恒川委員から 秋竹小学区、宝小学区の今後の動向は</p> <p>アンケートの中で</p> <p>山田委員長から 深刻なのは小規模校。これから様々な教育活動の中で支障が出てくる可能性がある</p> <p>溝口委員から 早急に結論を求めるのではなく、慎重に検討を</p> <p>加藤委員から 2・3学級ぐらいが適当であると思う</p> <p>安江委員から 小規模校のメリットとデメリット</p> <p>以上のご意見を頂きました。</p>
<p>書記</p>	<p>6ページの小中学校のあり方に関するご意見②小中一貫校についてをご覧ください</p> <p>会議のなかで</p> <p>山田委員長から 小中一貫教育のメリットは</p> <p>古川委員から 都市計画マスタープランを注視すること</p> <p>溝口委員から 地域住民の思いについて</p>

	<p>林委員から 小中一貫校が地域の魅力になるのでは 恒川委員から 小中一貫校の建設には子育て支援施設との共有を視野に入れて検討 アンケートの中で 山田委員長から 小中一貫教育のメリットについて 小林副委員長から 時間をかけて方向性を論じていくテーマであり、地に足をつけた議論ができればいい 溝口委員から 訪問して実態を知るなど、十分理解し課題を共有 一貫性のある方針を貫いてほしい 加藤委員から 小中一貫校は魅力的。あま市の旧町や学区の枠をはずして考えた方がよい。 安江委員からは 小中一貫校のメリット 以上のご意見を頂きました。</p>
<p>書記</p>	<p>11ページの小中学校のあり方に関するご意見③施設等の共有化・複合化についてをご覧ください 会議の中で 古川委員から 施設の共有化をぜひ進めてほしい 早川委員から 公共施設等総合管理計画に基づいた施設の共有化、複合化の推進を アンケートの中で 山田委員長から 小中一貫校や義務教育学校の設置と合わせて議論を 佐藤委員から 施設の共有化、複合化は地域住民の多様な学習環境の創出などにつながる期待がある 加藤委員から 移動の事を考えると現実的ではないように思う 安江委員から 共有化のメリットデメリットと複合化のすすめ 以上のご意見を頂きました。</p>
<p>書記</p>	<p>15ページの小中学校のあり方に関するご意見④これからのが国・学校と学校・学校と地域のあり方についてをご覧ください 会議の中で 山田委員から 地域と学校をつなぐコーディネーターについて 小林副委員長から 学校の中に外部の専門性をいかにして入れるか 岩井委員から 小1プロブレムと子供たちが生き生きと毎日生活できるような小中学校のあり方について アンケートの中で 山田委員長から 学校運営協議会の働きがもっとも重要で、地域コーディネーターがキーパーソンになる 小林副委員長から 長期的な視点で話す部分と、短期的に改善が求められる点の整理と意見交換から始め、できることから実践に移しては 溝口委員から 地域コミュニティの活動をもっと重視してほしい お互いが顔の見える関係作りに努力すべきで、学校が本音で話し合える関係作りに努力すべき 地域のコミュニティづくりの推進が大切である</p>

	<p>教育相談センターの拡充とスクールソーシャルワーカーの配置をひとり親家庭への支援、外国籍の子どもの日本語教育の必要性 加藤委員から 教職員だけの力ではできないこともある 安江委員から 特別支援教育における学校のあり方について 以上のご意見を頂きました。</p>
書記	<p>19ページの小中学校のあり方に関するご意見⑤ICT利活用について をご覧ください 会議の中で 古川委員から ICTを活用した授業の推進をスピード感をもって 小林副委員長から ICTの活用推進にファシリテーションのような他の専門性の活用を図ると良い 安江委員から スクールサポーター、ICT教員研修に感謝 佐藤委員から タブレット端末の学習面での効果に注視 アンケートの中で 山田委員長から 学校生活の中でICTを使うことについて 学校と地域との連携にICTを活用する まずはゼロステップの利用から 溝口委員から ICT利活用の課題は極めて重要 加藤委員から 10年後のビジョンを予測するのが難しい 安江委員から 情報モラルの意識の充実とグランドデザインの設定 以上のご意見を頂きました。</p>
書記	<p>23ページの小中学校のあり方に関するご意見⑥働く場としての学校を ご覧ください 会議の中で 古川委員から スクールサポーター配置事業は教員の働き方改革に寄与しているか 安江委員から 部活動の今後の展開について 恒川委員から 部活動のクラブチームへの移行について アンケートの中で 山田委員長から ICTの活用により教職員が本来行わなくても良い業務を改善 小林副委員長から 大掛かりな制度の変更などを伴わず、迅速に実行していける改善策も出せるのではないか 溝口委員から 民間はじめ外部から学校への依頼事項や保護者への対応等問題は多岐にわたる 安江委員から 部活動指導員について 以上のご意見を頂きました。 以上でご説明を終わります。</p>
山田委員長	<p>ありがとうございました。</p>
山田委員長	<p>それでは、「議題（2）アンケート集計結果」に入ります。事務局説明をお願いします。</p>

<p>学校教育課長</p>	<p>まず、委員の皆さまにおかれましては、アンケートへご協力いただきましてありがとうございます。</p> <p>いただいたアンケートの集計結果について担当からご説明いたします。</p>
<p>書記</p>	<p>ご説明します。</p> <p>第1回後アンケート集計結果をご覧ください。</p> <p>まず、アンケート問2においてあり方全般、あり方1から6についてご意見をいただいた内容については先ほどご説明したとおりです。</p> <p>1点、小林副委員長からいただいたご意見で、事務局から例示している1から6までのテーマの他に、テーマ7として「あま市の教育ビジョンと現状への認識の共有」を加えてはどうかというものがあつたことをご報告します。</p> <p>基本方針の共通認識について、先ほど教育立市プランの簡単な説明をさせていただきましたが、後ほど詳しく説明いたします。</p> <p>問1 あま市小中学校あり方検討委員会で今後話し合うテーマについて、ご自身の考える優先順位をご記入して下さい。について、いただいた優先順位の一覧は、集計結果にあるとおりです。</p> <p>なお、順位については、1位につけたものを1点、その後順番に2点、3点と設定し、その合計点数の少ない順番で順位をつけました。</p> <p>見て頂いてお分かりになるとおり、順位をつけたものの、委員さんごと完全に意見が分かれていて、優先すべき順番がばらばらです。</p> <p>なお、ご提案いただいたテーマ⑦あま市の教育ビジョンと現状への認識の共有については、現在策定中のあま市教育立市プラン（案）（令和4年3月版）を参考資料として本日ご提示させていただきました。後ほど詳しく説明いたします。</p> <p>以上で説明を終わります。</p>
<p>山田委員長</p>	<p>それでは、「議題（3）検討する課題の統合について」に入ります。</p> <p>先の委員会でも合わせて話し合うべきテーマについての意見がありました。話し合うべき課題はどれも関連していることから、別々に話しあうのではなく、ある程度合わせて話し合った方がよいと思われます。</p> <p>事務局から案はありますか？</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>第2回あま市小中学校あり方検討委員会 2（3）検討する課題の統合についてをご覧ください。</p> <p>先の会議やアンケートで頂いたご意見でもありましたが、一つのみでなく関連している問題について合わせてご検討いただいております。</p>

	<p>資料では、テーマ1から6について列記してある部分と、統合候補案を例示しました。</p> <p>アンケートの内容や会議の内容から、統合するテーマは大きく分けて2種類あるかと思います。</p> <p>ひとつ目は、①小規模校と大規模校、②小中一貫校、③施設の共有化・複合化の3つです。</p> <p>ふたつ目は、④これからの学校・家庭・地域、⑤ICT利活用、⑥働く場としての学校の統合例が記載してあります。</p> <p>これらをそれぞれ統合した形で話し合ってください、ご意見を頂ければと思います。</p> <p>以上です。</p>
山田委員長	<p>事務局からテーマの統合例の提案がありました。</p> <p>委員の皆さまは、質問やご意見はありますか。</p>
委員全員	特になし
山田委員長	<p>それでは、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ①小規模校と大規模校、②小中一貫校、③施設の共有化・複合化 2 ④これからの学校・家庭・地域、⑤ICT利活用、⑥働く場としての学校 <p>を統合し、これからこの委員会で議論を深めていきます。</p>
山田委員長	<p>それでは、「議題（4）検討する順番について」に入ります。</p> <p>委員の皆さんが、先ほど統合したテーマをどのような順番で話し合うのかを決めます。</p> <p>事務局から案はありますか？</p>
学校教育課長	<p>事務局としては、1小中一貫校関係についてご議論いただいた後、その議論のうえで、2これからの学校関係についてご議論いただいてはと考えています。</p>
山田委員長	<p>事務局から順番の提案がありました。委員の皆さまは、質問やご意見はありますか。</p>
委員全員	特になし
山田委員長	<p>それでは、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ①小規模校と大規模校、②小中一貫校、③施設の共有化・複合化 2 ④これからの学校・家庭・地域、⑤ICT利活用、⑥働く場としての学校 <p>の順番に話しあうこととします。</p>
山田委員長	<p>よって、次回第3回委員会では</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ①小規模校と大規模校、②小中一貫校、③施設の共有化・複合化の議論を進めることとします。
山田委員長	<p>それでは、議題（5）質問・ご意見聴取に入ります。</p> <p>まずは、事務局から本日の資料についての説明をお願いします。</p>
学校教育課長	<p>最初にあま市教育立市プランについてご説明します。</p>

	<p>このあま市教育立市プランは、今月16日の教育委員会で策定されたばかりのものです。時間の関係で今回資料としてご提示しているものは、(案)段階のものです。</p> <p>あま市教育立市プランは、教育基本法第17条第2項に規定する教育振興基本計画にあたります。これは「愛知の教育に関する大綱（2021年度～2025年度）」及び「第四次愛知県教育振興基本計画（「あいちの教育ビジョン2025」）」を参考にしています。</p> <p>あま市教育立市プランは、教育の振興に関する施策についての基本的な方針及び講ずべき施策その他必要な事項について定めています。</p> <p>あま市教育立市プランでは、6つの施策の方針を定めており、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学校の教育力を充実させ、あまっ子の学ぶ力を高める 2 人に思いやりを持ち、共に生きるあまっ子を育む 3 開かれた学校づくり、特色ある学校づくりを進める 4 学校の教育環境の整備と充実に努める 5 共に考え、学び、楽しむ生涯学習社会を創る 6 スポーツ環境の充実に努める <p>です。</p> <p>これらの基本的な方針を達成するために、いくつかの施策を主な取り組みとして提示しています。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>続いて、前回及びアンケートでご質問などいただいた内容についての資料を担当からご説明します。</p>
<p>書記</p>	<p>第2回あま市小中学校あり方検討委員会資料一覧をご覧ください。 2ページをご覧ください。</p> <p>近隣市の児童生徒数の暦年推移のグラフです。</p> <p>清須市を除いて軒並み減少傾向にあることが確認できます。グラフにすると微減傾向に見えますが、平均して毎年児童100人以上が減少している自治体もあり、このまま推移すれば大きくその数を減ずることは明らかです。</p> <p>3ページをご覧ください。</p> <p>あま市小学校別新入学児童数推移のグラフです。</p> <p>令和4年3月7日付け住基人口からの住民数です。特定時点での住基人口ですので、転入転出や私立学校などは反映していない人数です。</p> <p>ここで注目していただきたいのが、宝小学校と秋竹小学校の児童数です。35人で1クラスが編成されますが、両学校とも学年で1クラスしか編制できない人数であるばかりか、2校合わせてやっと2クラスか何人が転出してしまったら2校合わせても1クラスの可能性も出てきてしまいます。</p> <p>また、年によっては1ケタ人数もあります。</p>

4 ページをご覧ください。

施設等の共有化・複合化についての資料で、あま市近隣の民間プール施設についてです。

あま市内及びあま市近隣の民間プール施設の位置と、次のページには学校までの距離を提示しています。この4か所の施設へ仮にプール授業を依頼した場合に受注可能か照会したところ、いずれも可能であると回答を得ました。ただし、どの施設も通常営業の合間での実施となる事から、1か所で全校を賄うことはできません。

5 ページから6 ページ及びA 3 資料をご覧ください。

偶然ですが、名古屋市が学校外プールの活用について県内全市町村に照会を本年2月中旬に行っており、その結果を確認いただけます。この結果では、既に活用している自治体の方が多いことが分かります。

7 ページをご覧ください。

令和3年11月に近隣の民間プール施設である、あま大治スイミングスクールが学校のプール授業に係る営業をあま市教育委員会にしており、その際に甚目寺南小学校と美和中学校の見積書を受理しています。

8 ページをご覧ください。

プールの自校設置のケースと民間プールの見積書の比較を確認していただけます。見積書では小学校1校中学校1校しかありませんでしたが、クラス数をもとに見積書の内容で再計算した試算をご確認いただけます。この比較では、一概に民間プール施設に委託したほうが安価となるわけではなく、クラス数で安価となるケースと高額になるケースが発生することが確認できます。

9 ページをご覧ください。

あま市内の小中学校の標準的使用状況を調査した一覧です。

今回、注目いただきたいのはプールの使用状況ですが、学校ごとの違いは主にクラス数に由来しており、多くの学校では学年ごとに年間10時間のプール授業が行われます。

10 ページをご覧ください。

あま市内小学校のそれぞれ最も早く集合する通学団の集合場所とその時間及び学校までの距離の一覧です。

概ね7時30分前後が各小学校での最も早い集合時間であることが分かりますが、秋竹小学校は学区が広くないため、他校に比べて遅い集合時間となっています。なお、甚目寺東小学校が突出して早い時間に集合していることが確認できます。集合時間は学校からの報告によりますが、それぞれの距離はグーグルマップによる計測です。

	<p>11ページ、12ページでは宝小学校と秋竹小学校の通学路図をご提示しています。</p> <p>13ページをご覧ください。 学校教育関係予算の暦年比較をご提示しています。 近年では、校舎外壁工事やエアコン設置工事やGIGAスクール関連で予算額が大きく増加していることが確認できます。</p> <p>以上とは別に、各小中学校の令和3年度校舎等平面図がお手元にお渡ししていますので、教室等の使用状況等が確認していただけます。</p> <p>今回追加した資料は以上です。</p>
山田委員長	<p>ありがとうございました。 それでは、何かご意見、ご質問はありますか。</p>
委員	特になし
山田委員長	<p>順番に発言を促す。 山田委員長 小林副委員長 (有識者) 溝口委員 (小学校長) 加藤委員 (中学校長) 安江委員 (保育士長) 岩井委員 (幼稚園) 林委員 (財政) 古川委員 (企画) 早川委員 (子育て支援) 恒川委員</p>
小林副委員長	<p>○あま市学校教育関係予算について 児童生徒数が減少しているなか、教育費総額が増加しているのに違和感を覚える。 事務局：GIGAスクール以後については、GIGAスクール関係予算が毎年かかってきており、エアコン工事以後については、エアコン運用に係る光熱費が加算されています。 教育長：小中学校17校全体の予算であるということで、多少の児童生徒数の減少では大きく予算の削減は見込めない。学校1つ1年間の維持管理運営を考えたとき、児童生徒数とはかかわりなくかかってくる経費がある。学校を一つ運営するには、最低限これだけかかるという経費がある。そういった意味では、小規模な学校は児童生徒数と比較すると費用対効果の面では良くはないともいえる。ただ、お金の面だけで学校の数をはかるのではなく、児童生徒や住民にとって、どのような形が良いのかを考えなければならぬ。 施設が一つあることによって、設備の維持管理の経費が積みあがっていくということが良く分かりました。そういった意味で、学校を一つにまとめることによってコストカットははかれるであろうということも分かりました。</p>
小林副委員長	<p>○教育立市プランの着実な進捗を ハード面だけでなく、ソフト面についても教育立市プランに基づいて着実に進めていただきたい。 地域社会との連携など、これからの学校教育では重要となってくると考</p>

	えられます。やれるといいよね、ではなく、どうやったら実施して行けるのかと考えながら進めていただきたい。
溝口委員	○地域住民の声を十分に聴いて実施をしてほしい 地域住民との関係は大変重要で、住民の声を十分に聴いていただきたいと考えます。 委員長もおっしゃっていましたが、あくまで、子供中心に考えていただきたい。これを大前提で進めていただきたい。
溝口委員	○市長部局の他計画の進捗状況について 市長部局及び教育委員会の他計画との整合性について、現時点での公共施設再配置計画や公共施設等総合管理計画の進捗はどの程度か。
学校教育課長	学校における再配置計画については、これから進んでいく計画と理解をしています。
教育長	計画は立てられており、大きな目標としては計画にあるとおりであるが、実施についての方法については、これからであるといえます。その部分についても、ご意見が頂けるとありがたいと思います。 生涯学習の関係や福祉の関係の機能を学校施設の中で展開していくのかなと考えています。
企画財政課長	他の施設については、既に解体したものもあります。学校については、第1期が令和8年までですが、機能として複合化してきましょうというのが、計画の方向性であります。この会の中で複合化であるとか、小中一貫校について話し合われるものと理解しています。
加藤委員	○チーム学校で学校運営を行っていききたい 様々な経費が学校運営にかけられていることがよくわかった。 学校運営について、チーム学校という形で、地域や保護者といっしょになって行っていききたい。子ども達にとって何が良いのか、良い学校になるようにコーディネーターを中心に地域の方々の力を借りながら学校運営を行っていききたい。
加藤委員	小学校のカリキュラムの中では、水に親しむだとか遊ぶということが書かれており、その後、徐々にクロールだとか泳ぎ方について進めていく形である。個々の児童の能力差によるところは大きく、既にスイミングスクールで習っていることそうでない子の差は大きいと言える。 小学校の公教育の観点から、泳げる子どもでも、最初の水に顔をつけるところから始めなくてはならない現状もある。 教育長：特に小中学校では、生涯にわたって行っていくいろんなスポーツの基礎に親しむことを目標としている。個人ごとに得意なスポーツもあれば、不得意なスポーツもあるだろうが、不得意なスポーツについてもできるだけ基礎的なところまでは習得できるようにしてあげるといった目標もある。学習指導要領のなかで、選択で良いスポーツと必ず行わなければならないスポーツとがある。 水泳についてはコロナ禍の影響でできていないことが心配で、水泳授業

	<p>ができないことで泳げない子が増えていることが気掛かりである。水泳については、どれだけ水に親しむか、最低限でも25メートルは誰でも泳げるようにするということが目標になっている。あま市は水郷地帯でもありますし、いざ災害の危機的状況となった時に水の事故を少しでも減らしたいという意図もある。地域の方で、コロナ禍ではあるが、水泳の授業を無くさないでほしいという意見をもらったこともある。</p>
安江委員	<p>○児童生徒の個々の特性に合わせた育みについて</p> <p>発達特性を抱えた子どもをどのように育んでいくのかということが、今後ますます重要となってくる。発達特性を持っていない子どもについても、個々の特性を子ども達はもっているのだから、そういった特性をいかにして伸ばし、育んでいくのかは、教員の資質が問われるところであると考えている。スクールサポーターや適応指導教室と連携しながら、包括的に育んでいく必要がある。</p>
安江委員	<p>○ICT利用教育の知識や指導力の向上について</p> <p>ICT利用教育の知識や指導力の向上について、今後ますます教員の能力向上を図る必要があると考える。</p>
林委員	<p>○水泳指導の効果と方針について</p> <p>学校外のプールの活用について説明がありました。私どもは幼稚園なので、夏場に園庭に強化樹脂のプールを設置して、水に親しむことを主目的に行っている。</p> <p>小学校のカリキュラムのなかで水泳の授業がどの程度行えているのかを自分の子供をとおしてみると、民間のスイミングスクールと比較したら水浴びレベルの時間しか行えていないように見える。時間の制約もあり、子ども達の個々のスキルの違いもあるため、大変難しいと思われる。</p> <p>小中学校で何のために水泳の授業を行っているのか、正直なところ良く分からない。</p> <p>私の自宅の近くにある高校では、昨年度プールの取り壊しが行われた。コストがとてかかるのだろうなと想像する。</p> <p>小中学校の水泳の授業を民間のスイミングスクールに委託したとき、スキルの高い子がより広いプールで専門性の高い教えを受けることができるのだろうが、そもそもの費やされる時間が少ないことから、得られる効果が費やされるコストに比べて厳しいと思われる。新しくプールを作ってもコストがかかり、民間委託をしてもコストがかかりと、大変難しい問題であると思う。</p> <p>スキルのある子をもっと伸ばしていければいいなと思う。</p> <p>私の園での話ですが、今年から体操教室の指導をお願いするところを変えた。以前のところでは、ここまでできたらいい、出来なかつたらできないで頑張ればいいというスタンスの指導が行われていた。新しい業者さんは、飛べる子はもっと飛べるようにという方針で指導が行われている。</p> <p>学校の水泳指導もそういったスタンスで行われたらいいなと思う。</p>
岩井委員	<p>○子ども達はプールの活動が大好き</p>

	<p>資料を見て民間のプールをこんなにたくさん自治体で利用しているのだと初めて知って驚いた。</p> <p>保育園では、プールは小さなものですが全園にあって利用している。今年度は人数を減らして密にならないようにプールの活動を行った。プール遊びは子ども達はとても大好きな活動なので、今後も続けていければと思っています。</p> <p>保育園児が小学校に上がるに際して、スムーズに移行して行けるように意識して行こうと改めて考えました。</p>
恒川委員	<p>○場合によっては計画を変更することも選択肢に</p> <p>時間をかけて策定した計画であっても、もちろん計画通り着実に進めていくことは重要ではあるが、時間がかかっているからこそ、計画策定時から実施時に状況が変わってきている時もあるため、その時その時の状況をしっかりと見極めて、子ども達を中心に考えて行くことや地域の方の意見を重要視するためにも、時には大胆に計画から変更することも選択肢に入れることが必要であると考えます。</p>
古川委員	<p>○児童生徒数減少をとどめる課題解決となれば</p> <p>小規模校の解消は重要であると考えている。私が住む地区の秋竹小は1クラスしかないわけですが、アットホームでいいんじゃないか、コミュニケーションを豊かにしていくには小規模校も有効な面もあんじじゃないかと思う一方、2クラス、3クラスあるような規模が無ければできないこともあるということも理解しました。</p> <p>宝小、秋竹小の児童数がかなり少ない状況であり、今後の推移でも少ない状況が推移する。学校の統廃合又は、小中一貫校が、解決策のひとつであると思います。</p> <p>仮に小中一貫校をつくるとしたときに、規模ほどの程度が適当なのか、他の校区から越境を認めるのかということも考えて行かなければならないと思います。</p> <p>小中一貫校をつくるとした場合は、学区の児童生徒数減少をとどめる課題解決となればいいと思います。</p>
古川委員	<p>○民間プール活用のきっかけについて</p> <p>各市町の民間プール活用のきっかけについてプールの老朽化によって仕様が困難となったときに活用するか否かを検討したものか、小規模校として転入数の推移がみこみにくい場合に老朽化もあるので民間に委託する検討のきっかけになったものか、いずれか。</p>
学校教育課長	<p>傾向としてですが、そもそも最初からプールがない学校で、他の小中学校と一緒に1つのプールを運用していたが、運用上困難であることから民間プールの活用のきっかけとなったケースもありますし、老朽化又は破損により、プールの使用が不可能となった時に新たにプールを作るものか民間に委託するものかの選択を行ったとみています。</p>
古川委員	<p>○耐用年数30年での民間プール活用との比較について</p> <p>自校設置のプールの使用年数を耐用年数である30年で計算しなおす</p>

	と、民間プール活用との金額比較における差は変わってくると思われる。
学校教育課長	40年の使用を想定したのは、明確な根拠をもって40年としたわけではなく、近年の施設の長寿命化のなかで長く使用して行くことを想定し、30年に10年の使用を加えた。プールの自校設置について、30年で金額を計算しなおすと、自校設置に要する経費はその分大きくなり、民間プールの活用との金額比較において異なる結果が出ると思われる。
早川委員	○子ども達のことを考えながらもスピード感を 宝小学校の新入学児童数が、令和8年に一桁となる。 総合管理計画や再配置計画を作成したのは、企画政策課ですが、2つの計画を策定するのに4年間かけて作っています。学校の施設においても、複合化について計画内で記載されている。ソフト面も大切ではあるが、ハード面である施設の複合化、小中一貫校についても重要なテーマである。 令和8年入学という、これからまだ4年あると思うかもしれないが、ひとつの計画をつくるだけでも2年かかっていることを考えると、時間はない。計画を作る際にも、パブコメにかけたり、市民の方の意見を聞くために市民会議を開催したり、市民アンケートをとったりして、いろんな市民からの意見を聴取して作った計画です。 重い課題ではあるが、子ども達のことを考えながらも、スピード感をもって進めていければと思います。
山田委員長	○ソフト面での今後の展望について ソフト面での今後の予定している展望は何かありますか。 事務局：直近では、来年度の予算要求しているものとして、学校でのICT利用教育の面で、教職員の研修も予定していますが、さらに現場においてICT支援員の配置を計画しています。単なるインストラクターではなく、教育現場においてコンピュータの利用教育を教職員と一緒に考えて行くことを期待しています。
山田委員長	○学ぶ力について、共生について 教育立市プランは良くできているという感想です。 なかなか立市プランという名称を使うことはないため、すごいなと思えた。 施策1学校の教育力を充実させ、あまっ子の学ぶ力を高めると施策2人に思いやりを持ち、共に生きるあまっ子を育む及び施策3開かれた学校づくり、特色ある学校づくりを進めるにも関連してくるが、「学ぶ力」というのがキーワードになってくると考えます。 これから、小中一貫校になるのか、どういった形になるかは分かりませんが、どんな形になるとしても、この「学ぶ力」を高めるような形で持っていかなければならないと考えます。 この教育立市プランは、10年の目標とお聞きしました。OECDで生徒エージェンシーだとか教師エージェンシーとあって、エージェンシーという用語を用いています。主体的で自分たちでどんどん学んでいく力を身に付けていくということが主眼となっている。

	<p>先ほどの水泳の授業でも話が出ましたが、やりたい子、出来る子は、自分でどんどん進めて行けるような、そういった授業の形にもっていったらいいなと思いました。これらはソフト面ですが、そのソフトが生かせるようなハードづくりを検討していければと思います。</p> <p>施策の2は、「共生」です。愛知県でも非常に大切にしている考え方です。少ない人数の学校でも、それを生かしつつ交流していくことができるというかと考えます。その場合、ICTを利用することが重要になってくる。工夫をすればいろんなことができる。</p> <p>いろんな小規模校の様子をしてみると、どうしても肯定感が高まらないケースを見受ける。同じメンバーでやっているのに、出来る子はボスになってしまい、出来ないはずとできないままという感触を得てしまう。そういった状況を打破するためには、他校とつながって、つながりを意識することが一つの手段であると思います。そのあたりも今後の課題となる共います。</p> <p>様々な課題を考える際に、子ども主体に考えることが重要である。</p>
山田委員長	<p>○今後の児童生徒数増加の見込について</p> <p>新入学児童生徒数推移について、新たな団地等の建設などを考慮しない、現在の人口からの推移とお聞きした。学校によっては、一桁人数しかいないという大変衝撃的な数字であるが、今後大きく人口が増える要因となる何かはあるか。</p>
学校教育課長	<p>前回、都市計画マスタープランを考慮してというご意見がありました。都市計画マスタープランについては、つい先日、新たなものが策定されたところです。この新たなマスタープランを見てみると、宝小、秋竹小の学区では、防災関連である程度の計画がなされているようですが、それにより急激な人口増が見込めるような内容ではないようです。むしろ、この地域は人口が減っていく予測になっています。</p> <p>市全体では、9万人の人口を維持することを目標とした計画となっています。</p> <p>教育長：甚目寺地区はある程度の増を見込めても、七宝・美和地区については、市街化調整区域の市街化区域化が見込めないため、大きな人口増は考えにくいと思っています。秋竹地区では区画整理が行われて、若干の児童生徒数の増加はあったようですが、ほんのわずかです。</p>
山田委員長	<p>○民間プールの活用について</p> <p>名古屋市照会の一覧表をもとに 効果と課題について、事務局としてはどのように考えているのか。</p>
学校教育課長	<p>経費の面のみでは、効果が期待するよりも少なく、金額以外の面で各市が民間プールの活用効果を得ていることが分かりました。</p> <p>調査結果及び見積書によって、複数校でのプールの共有では調整に苦慮している様子や、民間プールを活用することによってインストラクターの活用により授業効果が得られていることが分かりました。</p>
山田委員長	<p>ご意見ありがとうございます。</p>

	<p>次回の第3回委員会では、本日統合した</p> <p>1 ①小規模校と大規模校、②小中一貫校、③施設の共有化・複合化 についての方向性やご意見を伺いますので、今までの資料をご確認ください。</p>
山田委員	<p>以上で、本日の議題を全て終了しました。 事務局に進行をお返しします。</p>
学校教育課長	<p>委員の皆さま、ご意見をありがとうございました。 続いてその他1点目として次回の日程について、ご説明いたします。 皆さまから日程調整表を頂き、できるだけ多くの方にご参加いただける 日程を探した結果、次回 第3回あま市小中学校あり方検討委員会につい て、5月も開催候補に入りたいと考えます。 5月の日程調整用紙について後日ご提出いただき、5月に開催できない 場合、既にいただいている6月の候補から選択させていただければと思 います。</p> <p>なお、第一候補を5月中、第二候補を 令和4年6月10日午後を想定しています。 また、第4回を8月に予定しております。日程調整のための照会をお送 りいたしますので、よろしくお願いいたします。</p>
学校教育課長	<p>続きまして、その他2点目として、追加質問・ご意見について、ご説明 いたします。 前回及び今回の委員会においてお渡しした資料及びそれぞれのテーマに ついて、質問又は追加で提出を求める資料についてある場合は、メール、 FAX、電話等で事務局までご連絡いただきますようお願いいたします。作成 できる資料については作成して次回委員会にてご提示できればと思いま す。</p>
学校教育課長	<p>委員の皆さま、他にございますか。</p>
学校教育課長	<p>本日はお疲れさまでした。 本日の会議の大要をまとめた議事録を作成し皆様にお送りします。 議事録をご確認いただき、修正の必要がある場合は、その旨学校教育課ま でお知らせください。 修正等の済みしだい議事録をあま市ホームページで公開します。</p> <p>次回、またよろしくお願いいたします。</p> <p style="text-align: right;">【閉会時刻 午前11時10分】</p>